

刊夕日五廿月十

常磐每日新聞

定価 一ヶ月五元 三ヶ月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五號十二字 第一行五元 第二行四元 第三行三元 第四行二元 第五行一元
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社
 電話 六三〇 郵政 常磐毎日新聞社



出家遁世

真繼雲山

【一】

現代人は權勢利祿を逐ふて飽くことを知らぬが、昔の高僧方はそれがうるさいとして逃げ廻られた。慧心僧都は横川に屏居して著述に親しみ、桃水和尚は乞食の群れに投じて、非人の世話に身を焦がし、關山國師は妙心寺を抜け出して、五條の橋の下から西瓜で釣りに出され、空也上人は鞍馬山の幽靜に弟子を置き去りにして却つて洛中の街頭に逃げ込んだ、西行法師の妻子を捨てたは、世に知らぬ人があるまい。

しかしこれ等は稀れに見るの清談にして、昔の僧侶ことごとく然りにはあらず。往昔の貴族佛教金盛時代には、世を捨てた筈の佛門、それ自身が權勢利祿の總本山であつたらしく、解脱上人の歌

これをこそ誠の道と
 思ひしに
 尙ほ世を渡る
 橋にぞありける
 また夢想國師の歌に
 厭ふとて染むる衣の
 色見れば
 世を渡る人の
 飾りなりけり
 とあるなど、就いて當時

の實相を知るべく、その点においては、管長選舉に火花を散らす現代の宗門と今昔その軌を一にする。

この歌のやうでは關山、慧心の諸師ならずとも、心あるものは鼻をつまんで山から里へと逃げ廻つたに無理はない。但し逃げ出した

刷毛は、關東隊か獅子の毛から製したのが最上です。これは信用のある大店で、さう名指してお買ひになるとよろしうございます。

ノート

ときます

とて世を捨てたるにあらず逃げ出した先にて、眞實の慈悲行にいそしんでゐられたのである。

それに比べると現代は、誰あつて一人の世を厭ふと

【朝】ねぎ—あさり—うの花あへ

【晝】牛肉—馬鈴薯—人參 玉ねぎ—五もく—おむれつ

【晚】いか—しめあぢ—キヤベツ—三杯酢

いふ人なく、我れもくと名利を逐ふて直往邁進すること、變れば變る世態人情

である。



彼女の清らかな瞳よ

(A子の素描) 三村哲郎

親芋が二錢、子芋が三錢にして置きませう— 百匁でね—

朝、野菜賣りとの彼女の談話。日の中は白の彼女好みのみの割烹着を取つた事のない彼女。

まだ廿の身ではあつたが母親に代つて一家の主婦振りを示してゐる彼女である。何處かバツジョネートであつたか、また反面愛憎な彼女でもあつた。快活過ぎる程はしやいでゐる事もあつたが、ひどく沈んだ素振りも多く見受けられた。

沈んだ時の方が反つて彼女の体度がいぢらしく、何となく優しかつた。時折り訪ねて来る、友達の子はまた快活な、それでゐる割にはにかみやである。彼女とよく話してゐる僕に、不満なのか時折り痛い皮肉な注射をするには少からず參つて了ふ。日子に批格して、彼A子

には見逃すべからざる実い一步進んだ腦の働きのひらめきが見受けられる。文學にも少からず驚異すべき、彼女の持つ特有な思想があり、理論があつた。そして、ロマンチック、モダニズム文學を割に輕蔑してゐる彼女である。

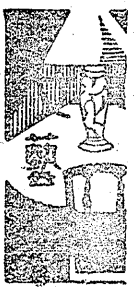
マルキシズムを語り— トルストイズムを語る— あの軟がい口元から流れ出す彼女の辨舌には少からず驚かされる。確固な理論が吐かれるのである。

彼女自身、マルキシストとして—

そして、イデオロギッシユな事を語り、最近では激しいニヒズムに陥つて来た急テンポな轉換は、餘りにも僕をして疑はしめた。

何時か彼女は、友人の鬚の毛を剃らずに長くして置くのを見て

— 彼女の鬚は時代錯誤だと言つて、嫌に攻撃した事があつた。



童謡詩

天の川

栗原北斗

一人して お月さま見てたら 足もとで 虫が鳴き出す チンチロリ 風は涼しい 空青い 白々長い 天の川

三種の毒 寒暖計 電話 500番

目丁二町平
三井タクシ
 番五八六話電

旭硝子株式會社製品
 赤菱印
板ガラス
 菓子壘
 菓子食器
 其他各種

製造賣販

松崎硝子製作所
 平町新川町(電話一四二番)
 仙臺市榮町(電話五九七番)

支工場

耳鼻咽喉科専門
 氣管食道科
 平南町(電話一七〇番)
大和田醫院

三河産業博覽會 昭和产业博覽會 金牌受賞

式儀用 **かまぼこ** 製造

お惣用菜 さつま揚 吉原揚

平町一丁目 **不彦** 電話一四一番

イヤ！君！
 いゝ冬服を求めたね
 斷然三二年型だよ
 いやコレカネ！
 例の……「ソレ」
正札堂

六三四電通場車停目丁四町平



中村齒科醫院

平町鍛冶町七

平町合格者中の 現役兵と補充兵

▽本日町役場に
夫々證書到着

平町に於ける本年度徴兵検査合格中入營すべき現役兵證書並に第一、第二兩補充兵證書は本日町役場に到着したが入營兵及び兩補充兵の氏名左の如くである

▽朝鮮第十九師團歩兵七十四聯隊へ十二月十一日に入營すべき者 (仲町) 大野末七(田町) 小野寺文平(材木町) 佐々木正雄 原田宗三郎

▽若松歩兵廿九聯隊に明年一月廿日に入營すべき者 (大工町) 有坂榮吉(南町) 酒井孝一 會川正雄(大工町) 永島道雄(田町) 椋木三郎 新妻彰宏

▽第十九師團野砲廿五聯隊に十二月廿日の入營者 五十嵐孝次

▽仙臺野砲二聯隊に明年一月廿日の入營者(紺屋町) 柳下重男

▽仙臺輜重兵二大隊に明年四月一日の入營者 渡邊正雄 猪狩源一

▽近衛歩兵三聯隊へ明年一月廿日の入營者 (才穂小路) 江口勇

▽第一補充兵 端山幸男 淺井惠三男 山部禎治 仲野正雄 藁谷高一 岡部敬介 本間鐵男 鎌倉勇四郎 大方房吉 渡邊武久 松原幸雄 片寄敏夫 加茂下良男 松本繁雄 橋光二 近藤壽 岡正林三郎 永山一 高橋廣 小林治 小川房雄 渡邊敏 猪狩清一 伊藤稻吉 鈴木滿 有坂治 鈴木俊三 中川作義 鈴木文雄 眞壁勝榮 丹野

孝吉 橋六郎 鷲廣治 新妻正直 井上正 佐藤武一郎 柏場武雄 松本健治 白土長太郎 山野邊龜夫 新妻二郎 鈴木繁 松永久一 水竹又四郎 大垣勇二 新妻芳夫 三浦和夫

▽第二補充兵 川口源平 渡邊忠夫

川前産業組合 石城郡川前村では豫てより有志が産業組合の設立準備中此の程決定組合員たる三百五十名に達したので来る廿日午前九時より同村小學校に於いて創立協議會を開き役員並に組合規定を制定する

會衆場に満る けふの新舊町長 歡送迎會の盛況

青沼、伏見新舊町長の歡送迎會は既記の如く本日午後一時より聚樂館に於て開催、定刻前より會衆場に溢れて非常な盛況を呈し先づ酒井助役の開會の辭に始まり伏見氏喝采を浴びて壇に起ち在職中大過ぎを得たるは町民各位の御援助に依るものであると懇篤なる謝辭を述べ續いて青沼氏登壇多事多端なる町政の前途を想ふ時町民各位の絶大なる御支持を切願すとて抱負の一端を拍手暫らく鳴り止まず直ちに祝宴に移り中島監督判事の發聲にて平町の萬歳を三唱舞臺には平藝妓の岸の柳平小唄其他の手踊麗しく演ぜられ午後三時盛況裡に散會した

米の販賣統制に 倉庫新設が増加 不況對策の一手段

石城郡下各農村では不況對策として米の販賣統制を爲さんと企て、居るが夫れには農業倉庫の經營が必要なので目下各村共倉庫の新設並に増築をなす向が多く平窪産業組合では来る廿九日同村小學校に倉庫經營に關する臨時總會を開會する外草野組合にても工費二千二百圓にて農倉新築を開始し勿來町農會に於ても過般の總會で工費五千圓を要する増築案が可決され目下補助申請中にある等各町村に農業倉庫は益々其力を強めて居る

磐炭陸上競技

福島高商を迎へて

石城郡内郷村磐炭炭礦の陸上競技部では來月日福島市に開催される縣下陸上競技選手權大會に部員十餘名が参加すべく目下猛練習中である尙同部では來月六日正間の体育デーの催しを目下計劃中

△白銀町一四 當時東京市荒川區七丁目二七四山本正惠氏三男道夫 回 婚 姻

△東京市王子區一〇三藤井義治氏(三二)平町仲間町廣田スエ(二二) 回 死 亡

△白銀町三五 當時石城郡小名濱町字上町一六武田ハツ(七六)

木村病院

平新川町十九
外産科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學士 内木宗八
整形外科 泌尿器科

町長時代の 思ひ出し

伏見彦衛氏談

私の町長時代に最も肝要な心掛けと感じ、日頃大いに努めたモットーがある、それは「住民第一主義」である

古い諺に「其の親、其の子の顔を、日に三度、なれば其の子病なし」といふ事がある。苟も町の福利を増進し、發展を祈念するものであつたならば、よく町民に接觸を保つて、總べての点に於いて町民を充分に

理解して居なければならぬ、私の「住民第一主義」は其處に根幹を發して居る。故に私は就任以來、平町の各方面に亘つて、實況を見る事に意を注いだ、夫れには一戸々々を訪問して、その家人に面接する事が最も策の得たる處であるが、就任當時の戸数は三千六百五十戸を算し、一日一軒宛を訪問、一ヶ月の間に

日子を要する事であり、繁激な職務の傍らであつて見れば到底此事は實現の可能性がない。其處で自分は、其の方面の祭り、或いは會合、催し等に當つては、如何なる都合も差繰つて顔を出す事に居た、案内の有無等は眼中にない、これは町民各位に接觸の出来るよい機会だと思へば、何處へでも

斯ふして町民諸君への接觸を重ね、町の輿論の大勢或いは希望の有る處を察し町治の上に役立たしめて居たのである。



阿部石炭商店

電話三七番

御注文ハ

正味十貫目 金三拾錢

配達ハ一俵ヨリ致シマス

健康保險の

給附額多く

隅田川炭礦へ

内務省から調査に

石城郡好間村隅田川炭礦には現在三百五十餘名の坑夫が働いて居るが他炭礦に比較して疾病率が多く健康保険の給附額が多額に昇る爲め今明兩日に亘つて明智縣健康課長立合の上内務省社會局の奥田技師が病因の調査を行つた

作品展

平第二校で

平第二小學にては来る二十七日、二十八の兩日講堂に於て全校生徒の作品展覽會を開催すると

市川検事

けふ送別會

平區裁判所上席検事市川幸熊氏は既記の如く山形地方裁判所検事に榮轉されたので左記諸氏發起の下に廿五日午後五時より住吉屋本店に於て官民合同送別會を開くと

- 平區裁判所監督判事 中島十藏 同檢事 上田次郎
- 平警察署長 小田部春吉
- 辯護士 永野柳造 町長 青沼鋒太郎

演習地下檢分 既報 磐城中等學校發火演習は三日後に迫つた爲め本日八谷、

銅線下

又もや捕る

石城郡湯本町宇三團四七谷地寅吉(三)は去る廿三日夜八時頃磐城炭礦第三坑内より銅線八貫目時價七圓餘のものを窃取し内郷村宮古物商豊橋讓に賣り拂つた事發覺目下平署で取調中

海人草を服用

平第一小學校にては昨年全校生徒に對し蛔虫驅除のため海人草を服用せしめた所其の効果が可成り良かったので今年も来る二十八日頃服用せしむる事になつたと

平町壯丁除隊

平町長橋町大阿久三郎君は此の程朝鮮第十九師團野砲廿五聯隊を滿期除隊し明廿六日午前十一時平驛着列車にて凱旋する事となつたが十五日目見山磐夫君も同く第九師團歩兵七十六聯隊を除隊する廿八日午後一時五十分平驛着列車にて歸郷すると

前を防いで

後から襲る

負傷せしめた

トラック逃走

今や交通脅惶時代

石城郡飯野村宇南白土木村爲吉(九)は昨廿四日午後四時頃平町四丁目地内を通行中前方より走つて來た自動車

明日のラジオ

廿六日

今朝の天気

今夜も明日も北の風曇りがち
小雨模様

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 長唄 三枝俊子(十才)同高崎洋子(十二才)三味線
- 若生榮子(九才)同加藤つる子
- 後七、三〇 講演 滿洲國外交部總長謝介石
- 後七、五〇 記念講演(朝

會我校長出張

平第一小學校校長我直治氏は本日草野小學校に於て開催された第四區兒童競技會に體育部長として同校横田訓導は審判員として各々出張した

夫の行衛

女房が心配

石城町磐崎村宇藤原大工職梅田敏治の内縁の妻富澤フヂ(三)は夫の敏治が去月廿日より宮城縣鹽釜町に出稼に行つた儘音信がないので生活にも困難を來たした處去る廿一日夫は仕事先より東京方面に行つたと聞込み本日平署に捜査方を願出た

社會教育官

石城郡視察

文部省社會教育官宮本金七氏は來月二日石城郡下の實業學校並に社會教育施設視察の爲め來平し翌三日には泉村公民學校及び錦村の鮫南中暨農民學校等を視察する筈因に同氏は本縣の出身であると

明日の部

- 指揮 ニコライ(ラフ)
- 後九、三一 (滿洲より) 全國ニュース 氣象通報 組豫番告
- 前九、一〇 料理献立「栗のヌーブ」松本良雄
- 前一〇、三〇 家庭講座
- 後一〇、〇五 連續講談「次郎長外傳大瀬半五郎」第一節 藤田了山
- 後一〇、三〇 運動競技「六大學野球リーグ戦試合狀況」慶應對明治二回戦
- 後二、〇〇 家庭大學講座 子供の心(子供の知能) 東大助教授青木誠四郎
- 後六、〇〇 子供の時間 お話と指揮山田耕作 管絃樂東京ラヂオオーケストラ
- 後六、二五 英語講座 初等科(十五)岡倉由三郎
- 後七、三〇 講演 徳富猪一郎
- 後八、三〇 雅樂 朝鮮京城李王職雅樂部演奏所より中繼
- 後八、五〇 新講談「伊藤博文公に就て」伊藤痴遊

平裁判たより

- △双葉郡久之濱町大字久之濱字北町十一番地七木請負業瀬戸新一郎(三)は去月三十一日同町料理店坂本クマ方に於て同人と口論の未手掌及びバケツを以て毆打し顔面に全治一週間を要する傷害を與へ罰金三十圓
- △石城郡草野村大字絹谷字眞坪五十六番地農渡國造(五)は去月二日同村字入薬師松崎豊次郎外五十一名の共有林より雜木百七十五本を窃取し森林法違反として罰金三圓
- △同郡江名町大字中ノ作字川岸二十四番地米穀商吉田保太郎(三)は去る三日肩書居村吉田九十方に於て同人と口論の末突然同人の足を拂て顛倒せしめ毆打し約二週間を要する傷害を與へ罰金四十圓に本日各々平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

勿來農會總會

石城郡勿來町農會では来る廿八日午後一時より臨時總會を開き理事の改選を行ふと

成績品の審査

平第一小學校にては本日午後二時より圖書及び手工研究部員並に學年主任一同にて來る十一月七、八、九の三日間本縣女子師範學校に於て開催される第一回縣下小學校兒童成績品展覽會出品品の審査を行ふと

職員對抗出場

縣下各中等學校職員對抗軟式野球大會は來月中旬郡山市に於て開催されるので磐城中平商警女各チームにも出場すべく目下練習中である

内郷校運動會

石城郡内郷村第三小學校にては

- △女中 二十才 尋卒 給料面談(平町某)
- △活版工 二十三才 商業 半退 給料面談(平町某)
- △事務員 二十二才 高卒 給料面談(相馬郡某)
- △ミシン裁縫見習 二十三才 尋三修 給料面談(入遠野村某)



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫
手造 酒

第百八十三席 平

神樂獅子大五郎

助五郎は繁藏にお禮を云はれて、

助「イヤ陣屋の御用が重なつた爲名代を寄越したが漸くその御用が濟んだ、それで喜びに出て來ました、聞けば小見川の宿禰神社の修繕をするとか、イヤ結構な事だ」

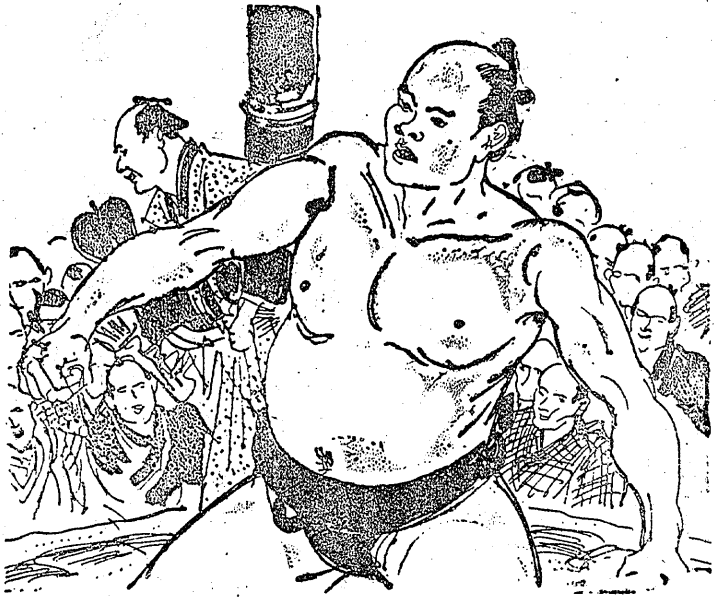
繁「あのまゝにして置くと社は朽果てしまふだらうと思ひましてそこで今度皆さんのお力を借りて再建いたす事にしました」

助「善い功德だ時に笹川の素人相撲が出來てゐると聞いたが」

繁「若い者が集まつて力くらべをして居ります」

助「そいつは面白い、見物しよう」

と是から裏の空地に來ると小屋掛ではあるが棧敷を設け土俵を本式に出來てゐる上下を着けて一味清風と書いた團扇屋の主人、相撲にかけては故實を知り、又通ですから頼まれて行司をする、助五郎は正面棧敷で見つゝ、今土俵では笹川の若い者と土地の百姓が取つてゐる見物はひびき、一番の名を呼ぶ、する、一、番



が終つてから助五郎が子分に向ひ

助「あれへ出て笹川の若い者と取つて見ろお前が負たならば神樂獅子を出す」

△「夫では一番取りまします」

忽ち投げ付けられた入り替つて出たは是又助五郎の子分で地溜りの又藏この者も佐吉の投げ出しの爲めに土俵の外へ轉つた、笹川の身内や土地の見物はドツと聲を擧げて佐吉を褒める、之を棧敷で見つゝ助五郎が助「弱い奴だな、佐吉の爲に俺の若い者が三人ほど砂をかまされた、ヤイ神樂獅子われが出て佐吉を投げてやれ」

まで取上げた者、この道での玄人、此方は力があるに似た所で素人、とても勝つ事はなるまいと思つたが断る事も出来ない

中央に突ツ立つて大「さア神樂獅子が相手をするから誰でもこれへ來て取れ……」

話人に告げ締込みをして土俵に上つた此時の相手は清瀧の佐吉、繁藏の子分では以前酒藏で働いた者で力もある、それに素人に似合

した佐吉を暫しと止めて大「清瀧のお主は多力だなそれに取手だ、力があつて業が出来る」とは鬼に鐵

楊掩が一丁相手をしよう」と云はれて佐吉はこいつは飛んだ奴が出た、神樂獅子は江戸の本場所二段目

つて行く、神樂獅子は土俵の

運動靴は……
月星靴を
斯界の王實用無比
名入れ金具付き
サーピス
金四十五錢より
ゴム長靴は……
月星長靴を
堅牢優美で
かかしのが特色
小 八〇より
大 二〇〇より

大塚支店
平・田町電話七七七番

看護婦急派
の求めに應
じます

平看護婦會
電話三〇七番

上田科醫院
平町 南町
電話一二九番

藤沼醫院
平町 紺屋町
電話五〇七番

新製品
コーヒー通の待望せる
挽立コーヒーの快味
四半卦罐入 〇、三五
半卦罐入 〇、六五

大勝園コーヒー部
電話三九六番

江戸前料理
紅葉に近き一日の行樂に
ぜひ錦水の御重入辨當を
御供させて下さい
ゼヒ一度御試食下さい
出前！迅速！
錦水
電話四五四番

玉屋洋品店
平町 紺屋町
電話六五六番